

主題：信徒

メッセージ 8

彼らの象徴——命の小麦、良い種、地の塩、世の光、人を取る漁師

聖書：マタイ 3:12. 13:38. 5:13-16. 4:16-20

I. 信徒は、命の小麦によって象徴され、主の納屋に収められます——マタイ 3:11-12. 13:24-30, 38-42：

- A. 信徒は、小麦として神聖な命を内側に持っています。命とは、人によって享受される神ご自身です——詩 36:7-9. ヨハネ 1:4. 10:10. 14:6. 6:63。
- B. キリストの命がわたしたちの中で妨げられないことを願うなら、わたしたちは十字架の砕き、すべてを含む霊の中にあるキリストの死の殺しを経験しなければなりません。それは、わたしたちの内側にある以下の障害が対処され、取り除かれるためです：
 1. クリスマンであることは、わたしたちの内に生きておられるキリストを顧慮し、キリスト以外の何ものをも自分の目的としないことを意味します。このことに対する障害は、命の道を知らないことと、キリストを命としないことです。——マタイ 7:13-14. ピリピ 3:8-14. コロサイ 3:4. ローマ 8:28-29。
 2. 第二の障害は、偽善です。人の霊性は、外側の現れによってではなく、彼がどのようにキリストを顧慮するかによって決定されます——マタイ 6:1-6. 15:7-8. ヨハネ 5:44. 12:42-43. 参照、ヨシュア 7:21。
 3. 第三の障害は、反逆です。わたしたちは事を行なうことにおいて非常に活動的で、熱心ですが、キリストを軽視することによって、依然として内側の生けるキリストを閉じ込め、背いているかもしれません——レビ 14:9, 14-18. 11:1-2, 46-47. ローマ 16:17. I コリント 15:33。
 4. 第四の障害は、わたしたちの天然の能力です。もしこれらの天然の能力がわたしたちの内ですべて砕かれないままであるなら、それらはキリストの命にとって問題となります——2:14-15. 3:12-17. ユダ 19-21。

II. 信徒は良い種、すなわち、王国の子たちによって象徴され、主によってまかれて彼の王国の中で成長します——マタイ 13:24. 38：

- A. 種は、神の言葉（4 節、19 節、ルカ 8:11）、キリストご自身であって（I ペテロ 1:23）、わたしたちの中へとまかれて、わたしたちを良い種、すなわち、復活の子たちとします（マタイ 13:38. ルカ 20:36-38）。
- B. 一粒の麦としての神の言葉は、神を命としてわたしたちの中に分与して、わたしたちを養います。また火としての言葉は、わたしたちとわたしたちが自信を持っている多くの事柄を燃やします。また、金槌としての言葉は、わたしたちの自己、天然の命、肉、情欲、観念を打ち砕きます——エレミヤ 23:28-29。
- C. 良い種として、わたしたちは主に従って、地の中に入って死に、復活の中で多くの実を結ばなければなりません。死ぬことと、十字架を経験することは、わたしたち

の魂の命、天然の命を否み、拒絶して、神聖な命によって生きることです——ヨハネ 12:23-26, 31-32.

D. 良い種をまくことは殉教です。なぜなら、「あなたがまくものは、死ななければ生かされない」からです（I コリント 15:36）。わたしたちは肉体的に、精神的に、靈的に殉教者となることがありえます（II テモテ 4:6. マタイ 16:25. I コリント 16:12. II コリント 2:12-14）。

E. キリストの愛の愛情は、わたしたちに押し迫って彼に生きて、死なせ、わたしたちを彼のための殉教者とします—— 5:14-15. ローマ 8:35-37. 14:7-9. 啓 2:10. 12:11.

F. わたしたちの環境におけるイエスの致死力は、内住の霊と協力し、わたしたちの天然の人を殺し、神聖な命を解き放ちます——ローマ 8:2, 13. II コリント 4:10-13. エレミヤ 48:11.

G. 主に対するわたしたちの奉仕はすべて、神から起こるのであって、自分自身からではありません。わたしたちが自分の中で彼の死に働いていただくとき、彼の復活の命は、わたしたちを通して、他の人の中へと分け与えられることができます——II コリント 4:12-13. 1:8-9. 4:5. 10:13 :

1. ダビデは神を愛し、神を畏れ、神と協力して、神に働いていただきました。彼は神の宮を建造する能力を持っていましたが、神の言葉が彼に来た時、彼はやめました——サムエル下 7:18, 25, 27. 参照、ルカ 1:38。

2. ダビデは宇宙における二重の証しを設立することをやめました。第一に、この宇宙における働きすべては神から来るべきであって、人からではありません。第二に、重要なのはただ神が人のために行なうことだけであって、人が神のために行なうことではありません。

3. 宮を建造する者と宮の敷地はいずれも、ダビデがその罪を赦されたことから、すなわち、神がダビデのために行なったことから生じました——サムエル下 12:24-25. 24:1-10, 18-25. 歴代上 21:18. 歴代下 3:1. 詩第 51 篇。

4. M・E・バーバー姉妹は次のように言いました、「神のために働くことをやめることのできない人はすべて、神のために働くことはできません」。

III. 信徒は地の塩であり、腐敗し、腐った地の細菌を殺し、除去します——マタイ 5:13, 参照、レビ 2:13。

A. ロトの妻は塩の柱になって、塩味をつける機能を失いました。なぜなら彼女はぐずぐずして、ソドムを振り返って見たからです。それは彼女が、神が裁いて徹底的に滅ぼそうとしておられた邪悪なこの世を愛し、尊んでいたことを示します——創 19:15, 24-26. ルカ 17:32。

B. 一生主に従うことは、わたしたちが持っているすべて、なし得るすべてを投入しなければならぬことを示しています。そうでないと、わたしたちは失敗した者となり、味を失った塩となって、栄光の領域から恥辱の領域へ投げ捨てられるでしょう—— 14:31-35. 参照、啓 3:21. ヨハネ 16:33。

C. わたしたちは失望させられるべきでも、落胆させられるべきもありません。むしろわたしたちは、すべてに十分な恵みとしての手順を経て究極的に完成された三一の神によって強められて、神聖なエコノミーを生かし出すことができるようになるべ

きです—— I コリント 15:10. II コリント 12:9. II テモテ 4:22. コロサイ 4:6。

IV. 信徒は、世の光であり、人々の前に光を照らし、この世の暗やみを払いのけます——マタイ 5:14-16. エペソ 5:8。

A. 光は神の臨在です。わたしたちは神から生まれたので、今わたしたちは主の中で光であり、光の子供たちとして歩かなければなりません—— I ヨハネ 1:5. エペソ 5:8-9。

B. 妄想、また自己欺瞞から救われる道は、わたしたち自身の光を生み出すのではなく、光の中を生き、神の照らしに開くことです——詩 36:8-9. 80:17-19. 139:23-24. I ヨハネ 1:5, 7, 9. イザヤ 2:5. 50:10-11。

1. 妄想に取り付かれている人の症状とは、彼が考え、行なうことは全く間違っているのですが、彼自身は全く正しいと考え、信じることです——マタイ 6:22-23. イザヤ 5:20。

2. 罪を犯すことは汚れの事柄です。罪を犯したけれども、罪を犯していないと信じ、それを義とするのは、暗やみの事柄です—— I ヨハネ 1:8, 10。

3. 妄想、自己欺瞞の原因は、光よりも暗やみを愛すること (ヨハネ 3:19-20)、また高ぶり (オバデヤ第 3 章) です。それは真理の愛を受け入れず (II テサロニケ 2:10-11. 箴 23:23)、唯一の神からの栄光を求めません (ヨハネ 5:44)。

C. 命は光の輝きから来るのであり、光は神の言葉の中にあり、光は命の内なる感覚です—— II コリント 4:6. 詩 119:105, 130. イザヤ 66:2. ヨハネ 8:12. ローマ 8:6, 14。

D. 「あなたの目は体のともし火である。あなたの目が単一であるなら、あなたの全身も光に満ちる。しかし、目が悪ければ、あなたの体も暗い。だから、あなたの内にある光が、暗やみにならないように用心しなさい。あなたの全身が光に満ちていて、暗い部分がないなら、ともし火の光があなたを照らす時のように、全体は光に満ちる」——ルカ 11:34-36。

V. 信徒は人を捕る漁師です——マタイ 4:16-20：

A. 人を捕る漁師になるとは、死の水の海によって表徴されるこの世から人を連れ出して、天の王国の中へともたらずことです——ルカ 5:10。

B. 人々をこの世から連れ出して、天の王国の中へともたらず方法は、王国の福音、すなわち、神の全体的な救いの福音を、人の住む全地に宣べ伝えることによります——マタイ 24:14. ルカ 4:18-19. エペソ 3:8-9。